

報告書

開催日時	令和 6年 5月 13日 14時02分 ~ 15時29分
開催場所	厚木市役所 本庁舎5階 第一委員会室
担当議員	市民福祉常任委員会委員 神子雅人委員長、栗山香代子副委員長、高橋伸也委員、 白川美作江委員、松本樹影委員、井上武委員 欠席委員:遠藤浩一委員
参加人数	一般市民 対面: 9人、オンライン 7人
報告事項	・令和6年度厚木市一般会計歳入歳出予算(井上委員) ・厚木市の人口、厚木市の高齢者施策について(高橋委員) ・厚木市の子育て施策について(白川委員)
意見交換 (テーマ)	テーマ: 少子高齢社会に挑む! ワールドカフェ方式及びオンラインでの意見交換 各グループでのまとめ 各グループの発表 対面Aグループ ファシリテーター: 松本委員 対面Bグループ ファシリテーター: 白川委員 対面Cグループ ファシリテーター: 井上委員 オンライングループ ファシリテーター: 高橋委員
参加者 からの 質問・ 意見等	別紙参照
意見書等 の検討が 必要な 意見等	特になし

令和 6年 6月 13日

令和 6年度 第19回議会報告会

市民福祉常任委員長 神子 雅人

参加者からの質問・意見等

議会報告

2024年度予算について（井上議員）、厚木市の人口（高橋議員）、子育て施策（白川議員）、高齢者施策（高橋議員）の報告後、質疑応答

【市民】市は総合計画に基づき予算を組んで実行するのだからどういう進捗があったのかわかるだろう。反省を生かして次年度をやる。1%の改善でも改善したというのが私たちは30%を求めるとしたときに、今のは報告になっていない。どう反映したのかが大事である。

—【議員】報告したのは議会での提案等を反映した結果である。

【市民】現職の皆さんが今までの流れを変えていかなければ、進歩がない。

【市民】議会の働きかけについての報告もあった。それなりに議会が努力、提案しての報告だった。ただ、市民の側から見たら、要求しているものまでいっているのかどうかとは思いますが、それなりに努力して解決していただいた。市民の意見をここで伝えていきたい。

【市民】自分の税金が何のために使われているのか不満がある。そんな態度で甘んじていいのか。

【市民】ワークショップの下地の情報として知りたい。報告で人口がこの2年で若干増加している。外国人が多い。自然増、社会増等あるが要因は何か。行政の何が結果に結びついているか示し、増で万歳ではなく、ベースの情報を伝えていただきたい。

—【議員】市が進めた施策で市民税をどう還元していくか。市は定住政策をしている。住んで働いて消費して厚木の力がついてくる。細かい数値は無いが、今後研究して報告したい。全体的な定住施策が寄与している。

【市民】市の人口について1月1日付の統計を調べると、令和4年、5年とどんどん減っている。令和6年になって増えたのか。

また、この3、4年で0～14歳の子どもが1,000人近く減っているが、どこが増えたのかの認識はあるのか。高齢者は5万人で子どもの倍である。子育て施策は130億円だが高齢者福祉は30億円だ。どうしてこんなに差がでるのか。市として何を重要視しているのか。平等ではあるが何の目的なのか。公正な使い方をした結果、子どもに予算が多くなるのは当たり前である。

—【議員】それらの論議をこの後、各テーブルでお願いしたい。

意見交換 テーマ「少子高齢社会に挑む！」

《Aグループ》

核家族化が進み父母の負担が増えた。祖父母は体力がない。かつては地域社会により子育て負担が軽減された。最近マンションなど近代化で、地域社会が希薄になっている。解決策は、高齢の方に子どもを預けて地域の子育てに参加する役割を持たせてはどうか。老人ホームに託児所をつくり子どもの面倒を見てもらう。子どもと高齢者の関わりで文化が継承される。かつての地域社会になるのは難しいが、まちの構造を変え新しい地域社会を構築する。

高齢者はまだやりたいことがあり、地域の活動や自治会など地域社会に入らない。支援を受けるだけでなく、役割があることで幸せ度が向上する。高齢者が次の世代との関わりを持つことが人口問題の解決になるのではないか。

《Bグループ》

子どもが少ないのは経済的負担が大きいためである。昔のように専業主婦は少ない。自治会費を集めに行っても留守が多い。

子どもが多ければ多いほど生活が豊かになるような政策をすればよい。オーストラリアは50年前より子どもが2.6倍に増えている。子どもが5、6人と国から援助金が出て、それだけで食べていける。

市は子どもへの予算が何もない。子ども政策に力を入れないとダメ。子どもが多いほど楽になるようにする。それで、日本の人口が倍になるのは困るが、人口が増えていかないと成り立たない。

《Cグループ》

国、企業、ローカルガバメントと各家庭がどのように成り立つかという、収入・支出を工面し、さらにスパイラルアップしていく。では、支出に何をかけているか。1意識の変化、2経済的な不安、3子育てに対する負担、4子育て環境の整備の遅さ。

子育てにベストエフォートという考え方がある。これは、子どもを預けるとき、最大限努力するが、万が一があることを理解して過失がない限りは訴訟しない合意である。これにより両親はフルタイムで働くことができる。

子育ては学費など経済的負担が大きい。

《オンライン》

子育てはお金がかかることをデータで示してはどうか。産みたくなる、産んで安心な市にしてほしい。女性が会社を休むと「子持ち様」と揶揄される。女性に負担が大きい男性も休みが取りやすい環境をつくる。本市は中小企業の人材

確保で生活賃上げ応援補助金がある。

高齢者は自治会の集金、回覧の負担が大きい。回覧を市ホームページで見られるようにしてほしい。回覧は市のシステム（市ホームページ、市の公式LINE など）を使って情報が取れる。また、更新時期も分かりにくい。

介護士の精神的体力的ケアにより高齢者を支える体制も必要である。コミュニティバスも進めてほしい。

《その他の意見》

【市民】30分で話すには（報告が）簡素すぎる。細かく知りたいので第20回議会報告会は時間を長く、3倍くらいあった方がよい。

【議員】貴重なご意見、ありがとうございました。いただいた内容は、今後の議会活動に活かしていく。